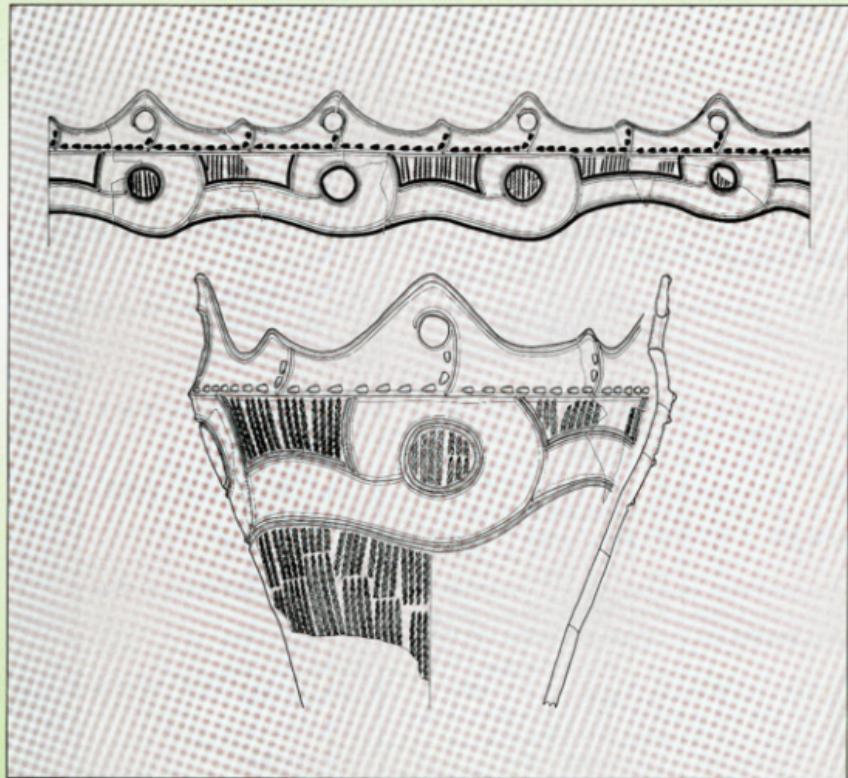


石巻市文化財マップ

[遺 跡 編]



平成 7 年 3 月

石巻市教育委員会

＜遺跡って何だろう？＞

土の中には、さまざまなもののが埋まっています。何気なく地面を掘ってみると、木の根や石などの自然にあるものに混じって、ビンや茶碗のかけらなど人が使ったものが出てきたりします。普通、こうしたものは単にゴミとしてしか見られません。しかし、考え方を少し変えてみると、それはまぎれもなく今よりも前（過去）に置き去られたり、捨てられたりしたもので、それを見ればいつの時代のものか、そしてその時代の人々がどんな生活をしていたのかがわかります。

このように昔の人が使っていた道具を捨てたり、生活していた痕跡が残されたところを遺跡といいます。「考古学」とは、読んで字のごとく「古い物（事）を考える学問」で、「過去の人々の生活など」を研究するものです。「過去の人々」についてですから、研究の対象となるのは大昔とは限りません。人類の誕生から現代までの時代が対象となります。しかし、過去を知るうえで、文字で書かれた記録資料が少なければ少ないと、考古学の果たす役割は大きくなっています。そして、研究するための方法の一つとして、分布調査や発掘調査が行われます。

分布調査

現地を実際に歩き、道路の切り通しの断面や田畑に土器などが落ちていないか調査します。土器などが見つかった場合は、そこが遺跡と判断されます。その土器などから時代を推定し、落ちている状況（「分布状況」といいます。）や地形からその遺跡の範囲を推定して記録していきます。このような分布調査をもとにして遺跡地図や遺跡台帳を作成し、遺跡を保護する資料とします。



▲ 分布調査の様子

発掘調査

発掘調査とは、実際に土地を掘って調査することで、学術調査と緊急調査があります。学術調査とは、大学などの研究機関が研究のために発掘することです。緊急発掘とは、遺跡のあるところに建物を建てたり、道路を作ったりするとかの開発によって遺跡が壊されたり、無くなってしまう場合に県や市町村の教育委員会などが発掘調査をすることです。

発掘調査では、遺構と遺物につい



▲ 発掘調査の様子

てできるかぎりの情報を収集して、調査・記録します。

遺構……地面を掘ったり、土や石を積み上げたりなど、人間の営みによって、土地が改変されたもので、動かすことのできないものです。住居の跡や墓、溝跡、古墳などが遺構と言われるものです。

遺物……石器・土器・鉄器・木製品など、人間が加工したものと、人骨や人間が食べたものの残骸である貝殻・魚骨・獸骨・植物の種などの自然遺物があります。これらは簡単に移動・持ち運びができるもので、遺跡の発見の手掛かりになります。

また、発掘調査の成果は多くの人々に公開し、遺跡の性格などを知ってもらい、ひいては文化財の大切さを知ってもらうことが大事です。そのために、現地説明会を開催したり、遺物整理をして報告書が出版され、博物館で展示したりしています。



▲発掘現場での現地説明会



▲整理作業。土器の実測の様子。

＜発掘調査の手続きについて＞

遺跡のあるところに家を建てたり、道路をつくったりするとき、その工事によって土の中にある遺跡は破壊されてしまいます。遺跡などの文化財は、私たちの祖先が残してくれた貴重な遺産であり、国民共有の財産です。ですから、私たちはこの財産を次の世代に伝えていくため、保護・保存に努めなければなりません。けれども、どうしても開発のために破壊されてしまう遺跡については発掘調査を行い、最低限記録によって保存しなければなりません。

それでは、どのような手続きが必要なのでしょうか。

- ①協議 工事をしようとする場所に遺跡があるときは、石巻市教育委員会を経由して、宮城県教育委員会に協議書を提出します。遺跡のある場所は、石巻市教育委員会に遺跡地図がありますので、確認してください。
- ②確認調査 宮城県教育委員会から回答が来ます。その結果、発掘調査が必要と判断された場合、遺構があるかどうかを確認するための調査を行います。そのとき、発掘調査の届出書を提出してもらいます。
- ③保存協議 確認調査で遺構が確認された場合、設計変更等によってその遺構が保存できるかどうか、再度協議が行われます。

④事前調査 どうしても設計変更等により遺構が保存できないときは、記録保存のための事前調査が行われます。発掘調査終了後に工事がおこなわれることになります。ただし、特に重要な発見があった場合には、文化庁からの指導により、遺跡そのものが保存されることがあります。有名な吉野ヶ里遺跡や三内丸山遺跡などがその例です。

※詳しくは、石巻市教育委員会社会教育課文化係にご相談ください。

連絡先 石巻市日和が丘一丁目1-1

Tel 95-1111 内線345

＜用語解説＞

縄文時代…今から約1万年～2,200年前、人間が狩猟・採集生活を送っていた時代でこの時代に使われた土器の中には、縄を転がしたり押しつけたりして模様をつけていたものがあることから、縄文土器と呼ばれ、縄文土器が使われていた時代を縄文時代という。草創期、早期、前期、中期、後期、晩期に時期の区分がされている。

弥生時代…今から約2,200年前～1,700年前までの時代で、東京の弥生町（現在の文京区）から縄文土器とは違う土器が発見された。そのため、この土器を弥生土器と呼び、この土器が使われた時代を弥生時代という。一般には稻作を中心とした生業が営まれていた時代と考えられている。

古墳時代…今から約1,700年前～1,300年前、高く土を盛って塚を造り墓としたいわゆる古墳が盛んに築かれた時代である。大和朝廷による国家統一がすすめられ、東北地方にもその影響が見られる。

奈良・平安時代…今から約1,300年前～800年前、天皇を中心とした律令制が行われていた時代を指し、主に奈良（平城京）、平安京に都が置かれていたことからこう呼ばれる。

標式遺跡…出土遺物の特徴的な様式から、特定の時代の標識となり、時代判定をする上で基準となる遺跡。

微高地…平野部などで、川の氾濫などにより土砂が堆積し、周囲と比較してやや高くなっている所。こうした土地には、遺跡のある可能性が高い。

丘陵鞍部…丘陵にある2つの頂上の間の、馬につける鞍のような形をした所。

舌状丘陵…ゆるやかな斜面の丘陵が舌状に突き出した部分のこと。

海蝕洞窟…海岸部に突き出した崖等で、岩石のもろい部分が波の力によって浸食され、洞窟状にえぐられたもの。

磨製石斧…石製の斧で、全体あるいは一部を磨いて形をつくったもの。

石 錫…石を打ち欠いて作ったやじり。

骨角器…動物の骨や角で作った、道具や装飾品等のこと。沼津貝塚から出土した鹿の角で作った漁具は全国的に知られている。

豎穴…地面を円形、または方形に掘りくぼめて床面をつくり、柱を建てて屋根をかけた住居跡。縄文時代から平安時代にかけて一般的に見られる。

石棒…棒状の石を、叩いたり、磨いたりして成形したもの。主に、縄文時代の祭祀に用いられたと考えられる。

金銅製刀…青銅に金メッキを施した刀の装飾部品のこと。锷(つば)・切羽(せっぱ)・飾刀・装具板等の金具等がある。

蕨手刀…古墳時代から平安時代にかけて使われた鉄製の刀で、柄(つか)の部分が蕨(わらび)のようになるくなっているもの。



▲ 蕨手刀（垂水囲岩陰出土）

土師器…800°Cくらいの温度で焼かれた土器の一種で、赤褐色をしており、厚手である。古墳時代から平安時代まで使われた。

須恵器…土師器より高温の1200°Cくらいの温度で焼かれた土器の一種で、灰褐色をしており、爪ではじくと金属的な音がする。地下式・半地下式の窯を使用して焼かれたものであり、ロクロを使って成形されている。こうした技術は古墳時代に朝鮮半島から伝わったものと考えられている。

帶金具…奈良・平安時代の役人は、ベルトを腰に巻いていたが、このベルトを飾る金具のことを帶金具と言う。当時の役人は、身分によってベルトの金具の質が厳格に規定されており、出土した帶金具によって身分を知ることができる。

柱立建物跡…地面に柱穴を掘ってその中に柱を建て、屋根をかけた建物の跡。奈良・平安時代では、中央政府の関連施設に多く見られる建物である。

墨書き土器…墨で、文字や記号、人の顔などを描いた土器。

縄文 …本州で稻作を中心とした弥生文化の時代になった頃、北海道では、縄文文化の伝統である漁労・狩猟・採集を中心とした独特の文化が営まれ、本州のいわゆる古墳時代まで継続したと考えられている。東北地方の北部を中心にその影響が確認されており、当時の文化交流を探る上で近年注目されている。

高坏 …食物を乗せる土器の一種。台の部分が手で捧げられるように高くなっている、その上に食物を乗せる皿の部分がつく。

配石遺構 …祭祀や炉、あるいは暗渠（あんきょ）等、何らかの目的で石を組み合わせている遺構。



▲高坏（田道町遺跡A地点出土）

木簡 …古代～中世にかけて使われた、細長い木札に文字を書き付けたもの。呪符（じゅふ。呪文を書いた札）や年賀に関するもの等さまざまなものがある。漆紙文書とともに文字資料の少ない時代の貴重な文献である。

登り窯 …斜面に築かれた陶器を焼く窯の一種で、焚口が斜面下部にあり、斜面上部に向かって火がまわるような構造のもの。

鍛冶工房跡 …鉄製品等を作った鍛冶の作業場跡。

炉壁片 …製鉄遺跡では、粘土で炉を築いて鉄をつくるが、その炉の壁を炉壁（ろへき）と言う。鉄を取り出す際にその炉を壊すので、製鉄遺跡の周辺からはこの炉の破片が多量に発見される。この炉の破片のことを炉壁片という。

フイゴの羽口 …製鉄や鍛冶を行うときには、炉の内部に空気を送り込んで高熱にする必要がある。この時の空気を送る装置をフイゴといい、フイゴと炉をつなぐ管を羽口（はぐち）といいう。

鉄滓 …砂鉄等を精錬して鉄を取り出した後に残る不純物の塊のこと。製鉄関連遺跡の付近に多く散布している。

葛西氏 …鎌倉～戦国時代にかけて石巻地方を領有した中世武士団。秩父平氏豊島氏から分かれ、葛西御厨（かさいのみくりや。現東京都葛飾区内）を本拠地としたことから、葛西氏を称した。初代葛西清重が奥州純奉行として平泉に赴任し、牡鹿郡を領地の一部とした。第16代葛西晴信の時、豊臣秀吉の小田原征伐に参陣しなかつたため、滅ぼされた。

館

跡…中世城館とも言う。各地の豪族が、平地や丘陵地に設けた中世の館（やかた、たて）である。平地の館は日常の生活に使用されるが、丘陵に築かれた館は戦闘の際に使用されることが多いため、掘立柱の建物等を随所に配置し、周囲に土を土手状に盛り上げた土塁（どるい）、堀状の大きな溝をめぐらせた空堀（からぼり）等の防衛施設を施してある。頂上の平場（ひらば。平坦面）には、最も重要な建物があり、ここを主郭（しゅかく）と呼んでいる。平場が数カ所あるのが普通であるが、中には一つの主郭とそれを取り巻く土塁、空堀で構成されているものがあり、これを特に単郭式の館跡と言う。

山

城…高い丘陵の上に築かれた中世の館（たて）や城のこと。山城とは逆に、平地に築かれたものを平城（ひらじろ）、その中間にあたるものを見山城（ひらやまじろ）と呼んでいる。

段

築…館跡の構造で、敵が攻撃しにくくするために斜面を人為的に階段状にしたところ。

板

碑…中世に建立された、石製の供養碑、塔婆。板状の石に種子（しゅじ。梵字で書かれており、一字で一つの仏様を表現している）、偈頌（げじゅ。経文から取った言葉）、建立目的、建立者、年号等を刻んだもので、まれに仏の姿を図で表したものがある。その形状から板石塔婆とも呼ばれており、東北地方には粘板岩製のものが多い。

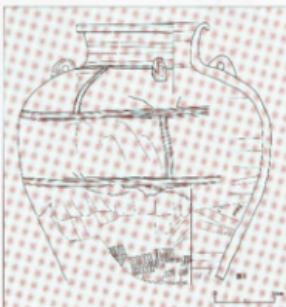
光明真言

…佛教で唱える27文字の呪文の一類で、これを唱えることによって一切の罪を説除することができるとされている。

袈裟

袋

…僧侶が着る袈裟（けさ）についている襷（たすき）のような文様のついた壺。水沼窯跡で出土したものは、渥美半島の常滑焼に酷似しており、水沼の位置からみて、平泉藤原氏との関係が注目されている。



經

…経文を筆写したものを作金銅製の筒（経筒）に入れ、土や石で塹を築いてその中に埋納したもので、平安時代に始まり、近世まで続いた。

一石

…一字あるいは二字づつ経文の文字を書き付けたもの。これを土中に埋め、塹を築いた。

基

…寺院のお堂や塔の基礎になる壇で、堅固に突き固められた盛土のこと。基壇の上に礎石を置き、その上に建物の柱が建てられる。

安 永 あん よい …安永年間(1772~1781)に、仙台藩で領内の村々の人口・地名・地理・神社仏閣・風土記 ふうどき 名跡等を調査して書き上げさせた記録。これによって、当時の仙台藩内の様子が知られる。

＜市内遺跡地名表＞

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
1	永巖寺貝塚	羽黒町一丁目	縄文(晩) 奈良・平安	昭和23年頃に発見された。境内にはアサリの貝殻片が現在も確認でき、縄文時代晚期の土器片や奈良・平安時代の土器片が散布している。
2	梨木畠貝塚	渡波字梨木畠	縄文(早~後) 奈良・平安	縄文時代早期の「梨木畠式土器」と呼ばれる土器型式の標式遺跡として知られている。また、奈良・平安時代の土師器、須恵器や人骨も出土している。
3	山下遺跡	No.6 清水尻遺跡に含める		
4	屋敷浜貝塚	渡波字屋敷浜	縄文(前~晩) 平安	万石浦南岸の標高約40mの舌状丘陵の頂部に形成された貝塚である。縄文時代の土器や石器、骨角器、平安時代の土師器が出土している。
5	根岸堤遺跡	No.43根岸堤貝塚に含める		
6	清水尻遺跡	清水町一丁目	古墳 奈良・平安	日和山丘陵の北に広がる微高地に形成され、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器、須恵器や墨書き土器が出土し、重要視されている。
7	梅ヶ丘遺跡	No.40梅ヶ丘窯跡に含める		
8	湊小学校遺跡	吉野町一丁目	奈良	北上川の東岸、市立湊小学校の一帯が遺跡と考えられる。昭和40年頃に藤手刀が単独で出土したといわれているが、現在のところ詳細は不明である。
9	館山遺跡	不動町一丁目 八幡町二丁目	縄文	北上川東岸の館山と呼ばれる丘陵の北麓に貝塚があり、磨製石斧が出土したといわれるが、急激な宅地造成により、現在その詳細は不明である。
10	五松山洞窟遺跡	八幡町一丁目 吉野町一丁目	弥生 古墳(後)	昭和57年の調査で、浸食によって形成された洞窟内から人骨とともに多数の遺物が発見された。特に太刀、金銅製刀装具、骨角器は注目されており、重要な遺跡である。
11	羽黒山遺跡	羽黒町一丁目	平安	市の中心部にある鰐山丘陵の頂部、鳥屋神社の東南の公園内が遺跡といわれ、土師器の破片が確認されている。
12	明神山遺跡	羽黒町二丁目	平安	市総合体育馆の北約80mの緩い斜面に広がる。畑地一帯に土師器、須恵器の破片が散布している。
13	明神山下貝塚	穀町	縄文	明神山丘陵の東端裾部に形成された、主にハマグリを主体とした貝塚である。縄文時代前期と後期の土器、磨製石斧、貝製腕輪が出土しているが、遺物は少ない。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
14	横堤遺跡	新横堤	縄文(晩) 奈良・平安	JR仙石線跡前山下駅構内から北側の畠地にかけて、土師器、須恵器の破片が確認されたが、急速な宅地化により現在その詳細は不明である。
15	日和山神社 経塚	日和が丘 一丁目	中世～近世	鹿島御兒神社の社殿北側にある直徑約6mの塚である。塚上には近世中期の庚申塔があるが、塚と関連するものかどうかは不明。また、その性格も現在のところ不明である。
16	西三軒屋 遺跡	門脇字 西三軒屋	古墳 近世	かつては幅約5m、高約1mの土壘が方形に巡っていた。現在は宅地化によって一部残されるのみ。調査の結果、近世河東田氏の屋敷跡と推定されたが、土師器片も見られる。
17	金西古墳	門脇字 西三軒屋 60.61	古墳 (近世?)	主体部は失われ、本来の形は判然としない。かつての調査で付近から池跡、配石造構が確認されたが、近世の瑞松寺の遺構と推定されている。明確に古墳かどうかはわからない。
18	県指定史跡 仁斗貝塚	田代浜字内山	縄文 (前～後)	標高約20mのテラス状の台地上に形成された、マガキ、レイシ、スガイ等の岩磁性の貝で構成されている県内でも珍しい貝塚で、土器、石器、骨角器など多数出土している。
19	二鬼城崎 遺跡	田代浜字 二鬼城	縄文(前)	田代島の北端、海に面した台地上にある。灯台付近の平地から縄文土器の破片が確認された。
20	神林遺跡	No.45一本杉貝塚に含める		
21	釜東古墳	門脇字 西三軒屋60	古墳 (近世?)	径約30m、高約5mのマウンドが良好に保存されている。古墳と考えられるが、西三軒屋遺跡との関連性もあり、近世の築山と指摘する向きもある。
22	葦塚貝塚	渡波字旭ヶ浦 渡波字原他	古墳 中世 近世	標高約3mの微高地に形成され、東西約1km、南北500mにおよぶ大貝塚である。しかし、殆どがハマグリを中心とした貝層のみで、遺物の出土は極めて少ない。
23	明神山経塚	山下町一丁目	中世	日和山丘陵の北端標高50mの尾根上にある。マウンドの高さは約3m。平面はほぼ方形で、頂部は削平されていたが複数の陶器の破片が出土し、中世末頃の年代が考えられる。
24	五十鈴 神社下貝塚	渡波字明神	平安	万石浦湾口の南岸にあるアサリを主体とした貝塚で、土師器、須恵器、製塩土器が出土し、平安時代の製塩遺跡と考えられる。現在は宅地の土盛の下になり、確認できない。
25	胡桃浜貝塚	渡波字須崎浜	平安	万石浦南岸の入り江にあり、標高1～10mの北向きの斜面に形成されたハマグリを主体とする貝塚である。一帯から土師器、須恵器の破片が発見されている。
26	神林貝塚	No.45一本杉貝塚に含める		
27	法音寺境内 貝塚	渡波字明神	奈良・平安	胡桃浜貝塚の南西約60mの地点にあるアサリを主体とした貝塚である。貝・遺物の散布は非常に薄いが、須恵器や製塩土器の破片が確認されている。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
28	真野貝塚	No46内原遺跡に含める		
29	小沢貝塚	高木字小沢	縄文(中) 古墳(前)	上品山の南麓から水田地帯に突き出した舌状丘陵の西側斜面に形成されたアサリを主体とする貝塚である。また、近年南端の水田から続縄文土器が発見され、注目される。
30	国指定史跡 沼津貝塚	沼津字出外	縄文(前~後) 弥生・古墳 奈良・平安	標高約20mの丘陵鞍部に形成された県内屈指の大貝塚である。明治~昭和初期まで毛利総七郎・遠藤源七が調査を行い、出土した骨角器は重要文化財に指定された。
31	南境貝塚	南境字妙見	縄文(前~晩)	石巻市と河北町の境にある。昭和40年代の調査で膨大な量の遺物が出土した。また、この調査で本格的な動物遺体の調査が実施され、その後の貝塚調査に大きな影響を与えた。
32	小多田遺跡	水沼字小多田	縄文(前)	標高約15mの、沢を望む谷合の緩斜面にある。石鐵、縄文土器片が確認されているが、時代は判別できない。発見された石鐵の形態から縄文時代前期頃と推定される。
33	越田台遺跡	沼津字越田	縄文、弥生 古墳(後) 奈良・平安	沼津貝塚の北約100mの舌状丘陵の西側に広がる遺跡である。昭和57年の調査で、古墳時代の土師器の高杯や建物の跡が発見されている。
34	市指定文化財 多福院 板碑群	吉野町一丁目	中世	多福院の境内に90基以上の板碑がある。その中には、後醍醐天皇の菩提碑といわれるものや、葛西氏の法名「蓮阿」、「蓮昇」の碑も確認されている。
35	福貴屋敷 貝塚	福貴浦字 福貴屋敷	縄文(前)	福貴浦湾に南面する標高10m程の台地裾部にある。斜面の下方に、巻貝やイガイを主体とする貝層が確認された。磨製石斧、縄文時代前期の土器片が確認されている。
36	長谷寺 板碑群	真野字萱原	中世	長谷寺の参道に79基の板碑が集められているが、原位置を保っていると推定できるものは10基程度であり、その他は周辺から集められた可能性が大きい。
37	アチャ浜 遺跡	牧浜字 アチャ浜	縄文(早~前)	標高約10mの丘陵西斜面に広がる遺跡である。縄文時代早期から前期の土器片が発見されている。
38	吉祥寺境内 板碑	牧浜字福貴道	中世	吉祥寺境内にある。願文、年号のない一尊種子(キリック: 阿弥陀如来)の板碑と、種子(タラーク: 虚空蔵尊)の下に願文のあるものの2基がある。ともに粘板岩製。
39	永享の碑	牧浜字竹浜道	中世	永享6年(1434)の年号が確認される。種子(タラーク: 虚空蔵尊)を月輪で囲み、その下に光明真言が刻まれている。粘板岩製。
40	梅ヶ丘窯跡	泉町二丁目	奈良・平安	標高約40mの丘陵斜面に、3~4基の登り窯があったといわれ、須恵器、土師器が出土した。現在は宅地開発により、その姿は失われている。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
41	箕輪山貝塚	大瓜字棚橋	縄文 奈良・平安	標高20mの丘陵斜面に形成された遺跡である。平成5年度の調査で、平安時代の鍛治工房跡が発見された。当時の鉄製品の生産・供給を解明する重要な遺跡である。
42	際遺跡	渡波字際	奈良	JR石巻線の東側、標高約30mの東に面する台地上に形成された遺跡である。一帯から土師器の破片が確認されている。
43	根岸堤貝塚	渡波字猪坂山 渡波字早坂山	縄文(前・中)	牧山丘陵の東麓、標高約10mの緩やかな斜面に形成されたマガキ、オニアサリ等を主体とした貝塚である。前期を主体にした市内でも貴重な貝塚である。
44	垂水圓貝塚	流留字垂水	縄文(中) 弥生・古墳 中世	JR石巻線に隣接した標高5m程の微高地上に形成された遺跡である。また線路西側の崖に洞窟遺跡があり、そこからは弥生時代の土器片や歿手刀が出土している。
45	一本杉貝塚	渡波字須崎浜	弥生 奈良・平安	万石浦南岸の入江に形成された、アサリ、ハマグリを主体とした貝塚である。土師器、須恵器の破片とともに製塩土器の破片も確認されている。
46	内原遺跡	真野字小山	奈良・平安	標高約30mの丘陵に展開する。一帯からは土師器、須恵器の破片が確認される。また、畠地として造成された部分に堅穴住居跡が露出している。
47	寺前貝塚	高木字寺前	縄文(晩)	小沢貝塚の西約200mの、東に面する斜面に形成された貝塚である。一帯からは縄文時代晩期の土器片が採集される。
48	安楽寺跡	水沼字寺内	中世	標高約20mの丘陵頂部の平坦面にある。周囲から板碑10基が確認されており、一字一石経も出土している。現在は開田のためかなり削平されている。
49	水沼館跡	水沼字館下	中世	標高約50mの舌状丘陵の端部にある。頂部に主郭を設け、その南北を3本の土塁と空堀で区切っている。館主は水沼上野介と伝えられている。
50	鷺ノ巣館跡	大瓜字鷺ノ巣	中世	標高70mの丘陵にある。主郭を中心第2・第3の郭が配置され、随所に土塁・空堀が設けられており、市内唯一の規模・構造を持つ。館主は平小三郎と伝えられる。
51	南境館跡	南境字金沢	中世	標高約20mの丘陵端部にある。主郭を中心段築が廻る単郭式の館跡であり、規模は小さいが保存状態は良好である。館主は大瓜玄蕃と伝えられている。
52	小屋館跡	真野字小山	中世	平野に突き出した舌状丘陵に構築された館跡である。畠地造成のため、地形はかなり改変されている。葛西清重が日和山築城に先立ち、居館としたところという伝承がある。
53	町貝塚	流留字町	奈良・平安	万石浦北岸にあり、湾に突き出した標高5m程の丘陵端部に形成されたアサリを主体とする貝塚である。土師器・須恵器の破片が出土したが、宅地開発により破壊されている。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
54	水貫山遺跡	南境字水貫山	平安	石巻靈園入口の北東約120mの丘陵裾部にある。ハマグリを主体とした貝層の存在も確認されている。一帯からは土師器や須恵器の破片が出土している。
55	磯田貝塚	沢田字磯田	平安	標高約5mの丘陵裾部から水田にかけて形成された、ハマグリを主体とした貝塚で、土師器の破片が出土している。
56	平形山根貝塚	沢田字 平形山根	平安	沼津から流留に抜ける取揚坂の北側斜面に形成された、アサリを主体とする貝塚である。遺物の散布は少なく、土師器の破片が少量確認されている。
57	日影山経塚 (平形)	沢田字 平形日影山	中世～近世	京ヶ森丘陵から西に延びる、標高20m程の舌状丘陵の頂部にある。直径約7m、高約2mのマウンドで、頂部に近世の石碑が建っているが、この遺跡の性格は不明である。
58	平形貝塚	沢田字平形	平安	薬師神社のある丘陵の西向き斜面にあり、ハマグリを主体とする貝塚である。土師器の破片が出土している。
59	構館跡	真野字日影山 真野字八森山	中世	京ヶ森丘陵から真野地区に向かって西に延びる、舌状丘陵の端部にある。主郭の東西に空堀が設けられている。
60	寺館跡	真野字萱原 真野字山王山	中世	長谷寺の北西に張り出す標高約30mの丘陵突端にある。中央の主郭を段築が取り巻き、東の尾根に続く部分には大きな空堀が設けられている。
61	沢田日影山 経塚	沢田字日影山	中世	万石浦の北岸、標高約70mの丘陵頂部にある。マウンドの直徑は約20m、高約4m。マウンド上には神社が建てられており一部削平されている。遺跡の性格は不明である。
62	大和田館跡	井内字坂上山	中世	J R石巻線を望む坂上山の端部にある。「安永風土記」に記述の無い館跡である。主郭を囲み、数段の段築が築かれている。
63	陣ヶ森館跡	真野字小島山	中世	標高約120mの、東西に延びる尾根の西端部にある。頂部には不明瞭な平場と、東端に尾根を断ち切る形で空堀と土塁が設けられている。
64	竹ノ下館跡	南境字竹下	中世	トヤケ森山丘陵の南端にあり、土塁と空堀が確認されていたが、現在は採石のため失われてしまっている。
65	魔鬼山寺跡	湊字舟石前山		標高約170mの、牧山丘陵の尾根上にある。南北に長い尾根の頂部に、建物の基壇と思われる地形や、何らかの施設跡と思われる痕跡が認められるが、時期は不明である。
66	田道町遺跡	田道町一丁目 田道町二丁目	古墳 奈良・平安	標高約2mの微高地にある。発掘調査により、古墳時代の住居跡、奈良・平安時代の大型住居跡、建物跡、帶金具、木簡等が出土し、役所関連遺跡として注目されている。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
67	伊原津洞窟遺跡	湊字鹿妻山	弥生	鹿妻山丘陵の東端部、粘板岩の崖面にある海蝕洞窟を利用した遺跡である。洞窟底面に貝殻が散布し、毛利總七郎・遠藤源七によって、弥生土器や人骨が発見されている。
68	鹿妻貝塚	湊字鹿妻 湊字山崎 湊字猪坂山		丘陵の麓に近い標高約6mの平地にあり、ハマグリを主体とした貝塚である。遺物の出土が極めて少なく、時期は判明していない。
69	大浜遺跡	渡波字大浜	平安 近世	万石浦南岸の入り江にあり、入江奥部の緩い斜面に形成されており、製塩土器の破片が散布している。また、昭和53年の調査で、近世の製塩遺構が確認されている。
70	取揚坂下遺跡	流留字取揚坂	中世～近世	取揚坂の南側斜面に形成されたアサリを中心とした貝塚である。貝殻が散布しているが、遺物は若干の陶器片が見られるのみである。
71	早坂山館跡	渡波字早坂山	中世	牧山丘陵から南に延びる、標高約120mの舌状丘陵上にある。北端の館跡基部を区画する空堀2本と土塁、また東斜面に竪堀が掘られている。単郭式の山城である。
72	猪坂山経塚	渡波字猪坂山	中世～近世	猪坂山丘陵の南端の尾根上にある。直徑約2m、高約1～2mで、3基確認されており、そのうちの一基は頂部に粘板岩が設置されている。時期、性格ともに不明である。
73	青木浜遺跡	渡波字青木浜	奈良・平安	万石浦の南岸、標高約1～5mの斜面に形成された遺跡である。土師器、須恵器、製塩土器が出土しており、古代の製塩遺跡と推定されている。
74	新山崎遺跡	蛇田字新山崎 蛇田字丸沼	古墳 平安	須江丘陵の東側裾部にあり、畠地一帯から古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土している。
75	新金沼遺跡	蛇田字新金沼	古墳	須江丘陵の東側に延びる標高約1～2mの微高地上に形成された遺跡である。一帯からは、古墳時代の土師器の破片が出土している。また、鉄滓も出土しているが、時期は不明。
76	高木古館跡	高木字石崎 高木字前田	中世	標高約50mの丘陵頂部にある。主郭をはさんで南北に2本づつの空堀を設けている。また東側斜面に数段の段築が築かれている。石巻市内の館跡の典型的な姿である。
77	鹿松貝塚	渡波字鹿松	近世	牧山丘陵の南側の微高地に形成された、アサリを中心とする貝塚である。遺物は殆ど見られないが、近世の陶器片が確認されている。
78	山居遺跡	小竹浜字 山居寺	繩文 中世	標高約250mの丘陵頂部にある。盆地状の平坦地が遺跡と思われる。かつて石棒が出土したという。また、中世の板碑がある。
79	荻浜遺跡	荻浜字有田浜	繩文	荻浜港を望む斜面にある。かつて石槍が2点出土したといわれているが、その詳細は不明である。
80	稲荷神社下遺跡	田代浜字 仁斗田	平安	仁斗田集落の西端、稲荷神社の下に広がる。しかし、その時期、性格等詳細は不明である。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
81	京ヶ森館跡	沼津字竹ノ森 真野字館坂山	中世	標高約280mの京ヶ森丘陵の頂部にある。主郭の北に2本南に1本の空堀が設けられている。また、南には樹形門の初源と推定される遺構が認められる。
82	田代島 十三塚	田代浜字 七ツ壇		田代島のほぼ中央部に、マウンド状の遺構が確認されている。その時期、性格等は不明である。
83	日和山城跡	日和が丘 二丁目	中世	北上川の西岸、標高約60mの頂部一帯が城跡と思われる。昭和58年の調査で掘立柱建物跡が確認された。中世石巻地方を支配した葛西氏の居城と伝えられている。
84	湊館山館跡	八幡町二丁目	中世 近世?	北上川の東岸、標高約40mの丘陵上にある。かつて、空堀があったが、大規模な採石のため現在は失われている。伝承では、江戸時代の初めの笛町氏の居館といわれている。
85	狐崎城跡	狐崎浜字狐崎	中世	狐崎浜の集落の北東にある丘陵が遺跡と思われるが、詳細は不明である。
86	平形館跡 (牛の鞍館跡)	沢田字平形	中世	標高約180mの山頂にある。東西両端を数本の土壘と空堀で区画している。南側斜面にも空堀が設けられており、2カ所に張出が見られるが、その性格は不明である。
87	出雲館跡	沼津字越田	中世	越田台遺跡のある標高約20mの丘陵にある。平場、段築と思われる痕跡が確認されるが、明確に館に関連する遺構かどうかは不明である。
88	水沼古館跡	水沼字小多田	中世	小多田部落の東端、南に突き出した舌状丘陵の突端にある。北側基部は堀切状の道路になっているが、空堀の痕跡と考えられる。水沼上野の居館と伝えられている。
89	三日防館跡	高木字小沢	中世	高木部落の東端、南に突き出した舌状丘陵上にある。中央に、土壘で区画された方形平場とそれを取り巻く段築、南端に通路と、それを守備するための土壘が確認される。
90	大瓜古館	大瓜字寺崎	中世 近世?	東に面した丘陵の中腹にあり、各所に崩落した石垣の痕跡や池跡が見られる。中世、大瓜古蕃の居館といわれるが、近世的色彩が強く、原田甲斐の一族が住んだという伝承もある。
91	牛ノ鞍館跡	沢田字裏沢田	中世	標高約160mの山頂にある。ただし、山頂には不明瞭な平場が見られるだけで、その他の遺構は確認できない。
92	鶴子坂館跡	沼津字八幡山	中世	京ヶ森丘陵から半島状に西に延びる丘陵にある。標高約50mの最高所が主郭で、平場を取り巻いて2段の腰郭があり、基部に石を据えた土壘も確認されている。
93	スケカリ浜 遺跡	狐崎浜字 スケカリ	縄文(前・中) 平安	太平洋に面した入江の斜面に形成された遺跡である。縄文時代前期～中期の土器が出土している。また、同じ斜面の下から平安時代の土器が出土している。

番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡の概要
94	法泉寺跡	湊字御所入山	近世	江戸時代の前半に開山された法泉寺は、開山後約50年で火災のため廃寺となっている。一帯には築地跡、建物跡、山門跡などが明確に残っている。
95	寺中畠遺跡	水沼字寺中畠	不 明	水沼地区を流れる沢の西岸にある。鉄滓が多量に堆積しており、フイゴの羽口、炉壁片が出土している。製鉄、もしくは鉄精錬遺構と考えられるが、時期は不明である。
96	内原東遺跡	真野字内原	不 明	内原地区を流れる沢の東側斜面にある。多量の鉄滓が堆積しており、フイゴの羽口の破片が出土している。製鉄、もしくは鉄精錬遺構と考えられるが、時期は不明である。
97	小萩山遺跡	真野字小萩山	不 明	内原東遺跡の200m上流にある。鉄滓が出土しているが、その量は少ない。製鉄遺跡というよりは、鍛冶遺跡ではないかと推定される。
98	神林遺跡	渡波字神林	縄文	万石浦南岸、標高8m程の斜面にある。縄文土器片、磨製石斧が確認されているが、現在は消滅している。
99	志ノ畠遺跡	沢田字志ノ畠	縄文	万石浦北岸、谷状に開けた平地にある。一部にアサリを主体とした貝の散布が確認される。縄文土器片が出土しているが、その量は少ない。
100	阿弥陀堂	大瓜字棚橋	中世	北上川を望む南面した斜面に阿弥陀堂があり、その周辺から板碑が発見された。
101	水沼窯跡	水沼字寺前	中世	昭和58年の発堀調査で中世の陶器を焼いた窯と、袈裟襷文壺が出土した。これは渥美半島の技術で焼かれたものであり中世の状況を示す貴重な遺跡である。
102	館坂山窯跡	真野字館坂山		標高約30mの北面した丘陵斜面にあり、重複した2基の窯が発見された。出土遺物がなく、時期は確定できない。構造から見て炭窯と考えられる。
103	羽黒町遺跡	羽黒町一丁目		図書館の前面を通る市道の断面に、焼土面を持つ落ち込みが確認された。遺物が見られないため、時期、性格とも不明である。
104	専称寺跡	湊字鹿妻	中世	南面した丘陵下の平地にある。周囲から中世の板碑が出土した。中世葛西氏の菩提寺である、専称寺の跡地と考えられる。
105	大尻山遺跡	高木字大尻山		標高約300mの丘陵鞍部にあり、沢沿いに多量の鉄滓とフイゴの羽口が出土している。また、付近には炭窯跡と考えられる遺構も確認され、製鉄遺跡と考えられる。
106	沼向遺跡	蛇田字沼向	古墳～平安	水田中の微高地上にある。畑地一帯に土師器の破片が散布している。

